

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社ライフステージ		
事業所名	グループホームひだまり Aユニット		
所在地	旭川市神楽4条1丁目3番5号		
自己評価作成日	令和元年10月19日	評価結果市町村受理日	令和2年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901613-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和元年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性を大切に、なおかつ能力に合わせた暮らしが送れる支援が出来るよう心掛けています。日常生活では掃除や洗濯・物干し・洗濯物たため・茶碗拭き等をスタッフと共に役割を感じて頂けるよう支援したり、毎日のラジオ体操やレクリエーションに力を入れています。夏季は3棟合同で外で行うラジオ体操、その後は希望者で散歩へ出かけたりします。天候不良時は、施設内でラジオ体操を行い、その後レクリエーションを行っています。又、隣接しているサロンでは月に数回マージャンやフォークダンス、お菓子作り等の好きな活動に参加。施設外から参加された人達と交流したりもしています。他にも夏季には流しそうめんやひだまり祭りをしたり、外食やドライブに出かけたりしています。また、誕生会や季節行事を行い四季を感じて頂きご家族や近隣関係者と交流を深めて頂けるようにしております。ご家族様には、毎日入居者様の様子を1行日誌として職員が記録したものや、行事・日々の様子を写した写真を通信として作成し他の記録と一緒に毎月郵送。日々の様子が分かり安心して頂けるよう努めております。他には、共用型デイサービスを行い入居が必要になった場合、馴染みの施設への入居も選択肢の一つとなるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR旭川駅から約1km、バス停より徒歩5分の交通の便に恵まれた閑静な住宅地にある。共用型デイサービスを併設し、隣接して「グループホームひだまりの家」があり、利用者同士の趣味や行事を通じて馴染みの関係を作ることが出来、職員も合同で全体会議を行ったり、同じ関わりを持つことにより、連携を密にして事例を共有しながら質の向上に取り組んでいる。夏季には毎朝外で、職員と一緒にラジオ体操とリズム体操を隣接の事業所と合同で行い、地域住民も参加して交流している。毎年開催している「ひだまり祭り」(事業所合同)では家族や地域住民も参加し楽しく交流している。地元中学校の福祉ボランティアや体験学習の受け入れも行っている。新設した「ひだまりサロン」では麻雀、フォークダンス、お菓子作りなどをして地域との交流や地域貢献、認知症に対する理解や啓発に努めている。職員は利用者一人ひとりの幸せを願って、利用者自身が出来ることは無理せずに任せ、やりがいを見い出すような支援をしたり、持っている能力を引き出すようなアプローチを行っており、単にケア中心ではなく、生活の充実を心がけている。利用者は、テラスで日光浴やお茶を飲んだり、外の空気に触れたりしてゆったりと思いいいに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	メイクハビネスの理念を実践し一人一人の入居者様への幸せを作り出していく事を目標に取り組んでいる。	事業所独自の理念「メイクハビネス」(「介護より快護」入居者様の幸せが、家族の幸せであり、私達の幸せです。)掲げて、日々利用者が楽しく笑顔で幸せに暮らせるように職員全員で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は外でラジオ体操を行う際、地域の方と一緒に取り組んだり、町内の散歩で挨拶を交わしたり毎年地域や家族との交流を深めるため、ひだまり祭りを開催している。世代間交流として職場体験学習の受け入れも行っている。又、地域の相談・交流窓口としサロンも新設し取り組みを行っている。	散歩で地域住民と挨拶を交わしている。また天気の良い日には外でラジオ体操を行い、地域住民も参加している。中学生の体験学習を受け入れたり、毎年開催している「ひだまり祭り」では家族や地域の人も参加し親しい関係を築いている。新設した「ひだまりサロン」を活用し地域との交流に役立てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や介護に関わる相談において、地域の方々から立ち寄り聞かれる際、相談に乗っている。又、運営推進会議の場を活用して情報提供をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催を設定し、地域・市役所職員・家族の方々に参加して頂き、日常の様子や行事などの報告をしている。その際、地域住民やご家族の意向を参考にしてサービス向上に努めている。	年6回開催し、市職員、民生委員、自治会長、看護師、利用者、利用者家族等が参加して、事業所の取り組み状況(行事や毎月の誕生会、日常生活の様子など)を報告し、意見や助言を得てサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やひだまり祭りには、可能な限り市役所職員の方にも出席頂いている。又、市主催の研修には積極的に参加。実施指導ではその都度疑問や対処を相談し、サービス向上に努めている。	市の担当者とは日常業務を通じて情報交換をし助言や指導を得ている。また、市や地域包括支援センター主催の研修会に積極的に参加し、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的で開催。全体会議や運営推進会議内でも勉強会を行い職員間でも意識を確認しあっており、普段玄関の施錠もしていない。	身体拘束廃止委員会を定期的で開催し、外部研修や内部研修で把握して身体拘束をしないケアに努めている。利用者の人権を守る事を最優先とし内部研修や全体会議、ユニット会議等で日常的に職員間で話し合いをしている。玄関の施錠は防犯上から夜間だけしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会で虐待の定義について話し合ったり、日常の中で利用者様への言葉使い等をスタッフ同士で話し合い意識して介護にあたっている。		

グループホームひだまり Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、資料等で情報を得、状況に応じて必要かどうかの話し合いを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、又は解約を行う時には利用者様やご家族に納得のいくまで十分時間をかけ説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入り口にご意見箱を設置している。又、ご家族が来所した際には日常の様子を伝えると共に、疑問や意見を言いやすい関係を築くよう心掛け、プランにも反映させている。	利用者や家族が意見や苦情を言いやすいように意見箱を入りに設置している。「ひだまり通信」を毎月発行して利用者や家族に情報提供し、日常の様子を伝えている。また、普段から利用者や家族が意見や要望を言いやすい関係を築くことに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回3つのユニット合同の全体会議と各ユニットごとの会議を行い意見交換や話し合いの場を設けている。又、日頃から朝の申し送り等で話し合いが出来る関係を作るよう努めている。	全体会議やユニットごとの会議で活発に意見交換や話し合いをしている。ユニットごとの会議においては職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。職員の勤務年数は長く、資格取得に取り組む職員には積極的に機会を与えて支援し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・有資格者などの評価基準を設けている。又、個々の努力・勤務姿勢に応じて評価している。職場環境や条件の整備にも、改善できる点は職員の意見・要望を聞きながら一緒に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修情報を提供し、参加を勧めている。又、事業所内でも研修を行い知識向上に日々努めている。資格取得に取り組む職員には対しては、必要な資料・情報を提供し、勤務体制も優遇的考慮を図り応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは、研修会やボーリング大会が行われる交流などにも参加し、情報交換の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面接の時間を十分取って、ご本人の思いを聞き、ご家族からもご本人に関する情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から情報を収集、希望・要望を聞き、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から話し合っていた事をふまえ、ご本人・ご家族が今必要としている支援を双方納得のいく形で提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の好みや願を尊重し、ともに楽しんでいる。一人一人の思いに共感して互いの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には普段の生活の様子を報告し、情報共有に努めている。また、毎日の様子を1行日誌にして記録し、毎月郵送。誕生会やひだまり祭りにはご家族を招待しご家族との絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人今までの生活歴の情報を収集し、昔からの友人や親せきとの関係を継続できるよう手紙や電話の支援もしている。又、面会に来られた家族との時間も大切にしている。	利用者や家族からこれまでの生活の様子を聞いて馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないように支援している。また家族や友人の来訪も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している様子が見受けられた場合、いつもスタッフが間に入り共通点を見つけた話題を振ったり、無理強いはせずゲームやレクリエーションへの参加を促し良い関係が保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続してサービス終了後であっても必要に応じて相談・助言・支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子や状態を把握し本人の希望を出来る限り実現できるよう個別ケアに力を入れている。	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は生活歴やしぐさ等から利用者の意向をくみ取り、できるだけ希望や要望が叶うように利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族等から、今までの生活歴や趣味・嗜好を聞いたり、利用していたサービス事業所から情報収集したりと把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の身体状況を把握し、記録に記入してスタッフ全員が現状把握出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見・要望を確認して、日々の申し送りやミーティング等で情報交換し、評価・課題の検討を話し合っている。必要に応じて医療機関・専門機関に相談し、より良い生活が送れるようケアプランに反映させている。	利用者や家族の意向を反映させ、医師や看護師の助言を得ると同時に職員間で意見やアイデアを出し合って6か月毎に現状に即した介護計画を作成して家族の確認印を得ている。また、状態が変化した時にはその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子やケアの実践結果を記入し、情報の共有をすると共に、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、病院への受診・往診対応や外出支援・買い物代行・訪問理美容の対応等、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・町内会長には運営推進会議に参加して頂き情報交換を行っている。避難訓練を通して消防機関とも連携を図り、安心安全な生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望や同意のもと、施設に来てくれる往診医への加入を勧めてはいるが、その他必要時はかかりつけ等継続して受診対応も行っている。	かかりつけ医の継続受診を支援し、適切な医療を受けられるようにしている。協力医への変更については利用者や家族の同意を得てから医療支援を行っている。月1回の往診があり健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の勤務日には、日常の様子や健康上の疑問点や問題点を報告しアドバイスをもらっている。又、職員では把握しきれない健康管理や医療機関への受診・往診・連絡調整の対応が速やかに取れるよう毎日の様子を報告相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診往診時から職員・看護師が同行しているので、入院前から医療機関・ご家族と情報を共有する事が出来ている。入院中も訪問し、経過の確認を行っており、退院・今後の事についての話し合いには、ご家族と一緒に医師の説明に同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で重度化・終末期についてご本人・ご家族と話し合っている。重度化してきた場合その都度ご家族・施設・医師と話し合い、当施設が出来る事を十分に説明し、同意のもと個々の状態に合わせた対応を取っている。	入居時に本人、家族と重度化や終末期に向けた話し合いをして同意を得ている。重度化した場合、家族や医師、施設が話し合いを重ね、事業所のできる事を十分に説明し方針を共有している。看取りに対しては人為的問題やノウハウがない等で現実的に難しい事を理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、日頃から当施設の看護師や往診時・受診時には医師と緊急時を話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回避難訓練を行っている。	火災や地震、水害等災害時に備えて、年に2回（日中と夜間想定）消防署の協力を得て避難訓練を行っている。水害に備えた垂直避難訓練もしている。職員は押さない、走らない、しゃべらない、戻らないを避難時の合言葉としている。	災害の際に地域住民の協力が得られるよう、運営推進会議や町内会、地域の人と触れ合う機会が多い新設された「ひだまりサロン」を通じて、地域住民の協力体制を構築することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ「自分でやれる」誇りを大切にしながら、本人のプライバシーに対しても十分配慮した言葉かけや対応をしている。	個々の尊厳を守るため言葉使いに注意を払い、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。また、日常の業務や全体会議、ユニット会議で話し合いができており職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者に関わりかけ、選択・決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールに沿って声掛けや誘導を行っているが、その日の体調や気分によって起床や食事の時間を変更したり、入浴日も変更したりしている。又、レクリエーションの希望を聞き、やりたい事が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを日常生活から情報収集してご自分で選んで頂いたり、寒さ・暑さを考えてスタッフと一緒に選ぶ事もある。訪問理美容で毛染めやパーマをかけた後、爪切りや髭剃りの支援も定期的に行っている。		

グループホームひだまり Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事では、個々に合わせた形状や量で提供している。誕生会ではリクエストを取り入れたり、月に一度の調理の日では、職員と一緒に食材を切り、味つけをしたりを共にしている。その他、おしぼりを準備したり、茶碗やお盆を拭いて頂いたり出来る範囲で行っている。	日常の食事は個々の体調に合わせた食事量で提供し、月に1度の「調理の日」には利用者と一緒に献立を考え食事を楽しんでいる。利用者個々の能力に応じて茶碗やお盆拭き、おしぼり準備等をしている。誕生会やクリスマス会等の行事食ではリクエストを取り入れている。外食では、利用者の好きなものを注文している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を毎回記録し、個々の摂取量を把握している。気温や体調・状態に応じて水分の増減・食事の形状を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・うがい・拭き取り等行う事が出来ており、個々の状態や能力に応じて道具や介助方法を工夫して口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を記録し、時間の間隔を考慮しその方にあった声掛け誘導する事で習慣化し、失敗を軽減している。	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、適時にさりげない声掛けでトイレに誘導し、職員が丸となって排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日施設で手作りのヨーグルトを提供。こまめに水分補給を支援し、ラジオ体操や散歩・ストレッチ体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせて変更が可能になっており、週2回の入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	週2回の入浴を目安にしているが、希望や健康状態を見て柔軟に対応している。午前中の中の入浴希望も受け入れ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や状況に応じてソファや居室へご案内し休息して頂いている。ご本人がリラックスし、穏やかに安眠できるよう室温や湿度、音等にも配慮している。夜間眠れない時にはご本人の訴えに応じて話を聞いたり、飲み物を提供したり、トイレ誘導を行ったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はスタッフ全員がいつでも見られるようになっており変更があった場合も記録を確認する事が出来ている。又、変更後の様子は皆で観察し、記録記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に1回の外出行事に加え、他のユニットに訪問しレクリエーションや将棋等に参加している。又、毎日の掃除や洗濯物を干したりたたんだり、茶碗拭きをしたりとそれぞれ出来る事の役割を持ち生活にメリハリをつけている。ご家族と外出されたり、面会に来られたり、子供とふれあう支援もしている。		

グループホームひだまり Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏季の間、午前中は外でラジオ体操を行っている為、その後希望された方は散歩へ出かけている。テラスも利用し、日光浴やお茶を飲んだりと少しの時間でも外の空気に触れられるよう支援している。また、個々に家族と外出も楽しんでいる。	夏季には外でラジオ体操を行い、その後散歩をし、テラスでお茶を飲むなど、外気欲ができるよう支援している。四季彩の丘や花フェスタ、北彩都ガーデン、菅野ファーム等に出かけたりフードコートで外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせた対応をしている。事務所で預かりしたお小遣いを買物機に支払える支援をしたり、ご家族管理のもと日常的にお金を持ち外出の際使う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり取り次ぐ支援をしている。手紙が届いた時も手渡したり、能力に応じて読み上げる支援もしている。また、返事が書けるよう手紙や封筒・ハガキ等を用意したりポストと一緒に投函しに行ったりもしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけや、テーブルに花を飾ったりと四季が感じられるよう工夫している。室温や湿度を調節したり、テレビや音楽・ラジオも状況に応じて調節している。又、掲示物はご家族や来客にも見やすいようにしている。	居間や食堂、浴室等の共用空間は温度や湿度が適切に調節されている。壁には季節感ある飾り付けや居間のテーブルには花を飾ったりと生活感を醸し出している。食事時には懐かしい音楽を静かに流し居心地よく生活できるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士で過ごせるようソファを数か所配置したり、夏季はテラスに椅子やテーブルを設置したりと思い思いに過ごせる場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される前に希望の方は、使用されていた家具や嗜好品を持ち込む事が出来、少しでも安心して過ごしてもらえるよう支援している。	使い慣れた馴染みの家具や小物類を持ち込み、今までの自分の生活が続けられるように雰囲気作りを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テラスへ出る際等、分かりやすい位置に靴や上着・帽子を置き椅子を設置。ご自分で外へ出る準備が出来る方は、一連の行動がスムーズにいくよう配置している。又、トランプやパズル等ご自分でゲームを選んで持って来られるように道具も取りやすい位置に置くようにしている。		